

◇◇◇ 横濱プロバス倶楽部の紹介 ◇◇◇

近隣プロバスクラブとの交流会をはじめ、卓話やゴルフ、囲碁、俳句などの交流がなされるようになり、相互のクラブの活動に関心ももたれるようになってきました。更に深めるべく近隣プロバスクラブのプロフィールを紹介させていただきます。今回は横濱プロバス倶楽部です。

横濱プロバス倶楽部は、2001年1月30日の設立、18年目を迎えます。ホームページを開くと冒頭に「楽しくなければプロバスではない」が目飛び込む。会員数は42名。
 *同好会には、にこにこサロン(夏冬2回、自由参加の飲食会)、海山同好会(潮干狩り、バーベキュー大会など年1、2回)、ゴルフ同好会(年数回)、旅行同好会、グルメ同好会、以下毎月のボウリング同好会、パソコン同好会(外部講師)、英会話勉強会(講師:ダニエル T. 山田会員)、カラオケ同好会等多岐にわたり、活発に活動をされています。
 *他クラブとの交流は、神奈川県内の PC をはじめ、福島プロバス倶楽部、全日本プロバス協議会東日本ブロック交流会、同左總會等、積極的に交流を進めています。この8月1日(水)の東京多摩プロバスクラブ例会にて、ダニエル T. 山田氏に下記の交換卓話をさせていただく。
 *会長;岡部正久氏、副会長;東野 操氏
 幹事;神谷恒夫氏、副幹事;保谷英雄氏
 事務局・会計;松下尚雄氏

*例会式次第(12:00~、会場;YBS南幸ビル9階)

- ・昼食タイム
- ・開会
- ・会長挨拶、ゲスト紹介
- ・ビジター紹介、新入会員紹介
- ・誕生月会員紹介
- ・会務報告
 - i)理事会協議及び決定事項報告
 - ii)各委員会報告(例会・会員・情報)
 - iii)全日本プロバス協議会
- ・事務局報告
- ・会員放談
- ・同好会活動報告と予定
- ・今月の歌
- ・閉会の言葉

幹事
 会長
 紹介者
 会員委員長
 会長
 各委員長
 全日本会長
 事務局長
 各同好会
 全員起立合唱

*広報誌「よこはま通信」の発行(年3回)

*ホームページ; yokohama1probus.com

◇◇◇ 交換卓話 ◇◇◇

交換卓話「マッカーサー」

横濱プロバス倶楽部 ダニエル T. 山田氏

○生い立ち

誕生と同時に母を失った私はアメリカの富裕な夫人に引き取られコロラド州で幼年期を過ごした。このアメリカの母は私に日本人としてのアイデンティティーを持たせるために、4~5歳の頃から日本の小学校の教科書を取り寄せてローマ字のフリガナを一緒に読んでくれた。



○従軍、朝鮮戦争勃発

成年に達した私はコロラド州第4歩兵師団工兵隊に入隊した。1950年6月25日北朝鮮軍13万がソ連製戦車T34を先頭に立て38度線を越えて侵略してきた。韓国を支援する国連軍の主力米軍は勇猛なウォーカー中將の指揮する第八軍であったが、貧弱な武器しか持っておらず釜山まで追い詰められていた。彼はパットン戦車軍団の將として大活躍し、ナチスの戦車1,200台を壊滅させた猛将である。

その頃国連軍を悩ませていたのは日本語しかできない韓国の將兵との意思疎通であった。そこで日本語のできる私はウォーカー中將の側近として活躍する事になった。

○マッカーサー(池上彰氏の三つの過ち)

北朝鮮軍に追い詰められた国連軍は最後の拠点釜山で重要な作戦会議を開くことになり、マッカーサーが東京からやってきた。ウォーカー中將の命令でコーヒー好きのマッカーサーに、鉄兜で沸かしたお湯でCレイションに付属

していたインスタントコーヒーでもてなした。これをありがたうと言って黙って飲んでくれた。私はマッカーサーに抱いていた反感はこれですっかり氷解した。

仁川上陸作戦について、多くの將は干満の差が激しく成功が覚束ない作戦に反対し、韓国を放棄して日本で巻き返すべきだと主張した。しかしマッカーサーが主張したのは「北朝鮮と背後のソ連が狙っているのは日本だ。大戦中私は日本人を野蛮人だと思っていた。しかしこの国に来てみて日本人ほど正直で、智と仁のある民族はいないと思うようになった。日本は将来米国を抜いて立派な民主主義国になり世界に民主主義を広めるだろう。この国を守らなくてはいけない」と自説を押し通し仁川上陸作戦を成功させた。仁川の地形的な難点を克服するために、大礮で訓練中の上陸作戦を得意とする海兵隊を投入、また日本で木製の梯子を大量に作るなどの対策が功を奏したのである。

このように日本を大事に思っている人格者で聡明なマッカーサーを評して池上彰氏は

- *退役後帰国して大統領になりたかったがなれなかった。
- *アイゼンハワーとの士官学校でのトップ争いに負けた。
- *日本人は12歳以下と言った。

などと発言したが、大間違いであることはお判りになると思う。

○臨死体験

その後国連軍は勝ち進み、鴨緑江まで進軍したが、突然60万人の中共軍に攻め込まれ退却を余儀なくされた。その最中、私は肺炎に侵され瀕死の状態になり釜山の死体置き場に放置されたが、幸い死体でないことを発見され生き残